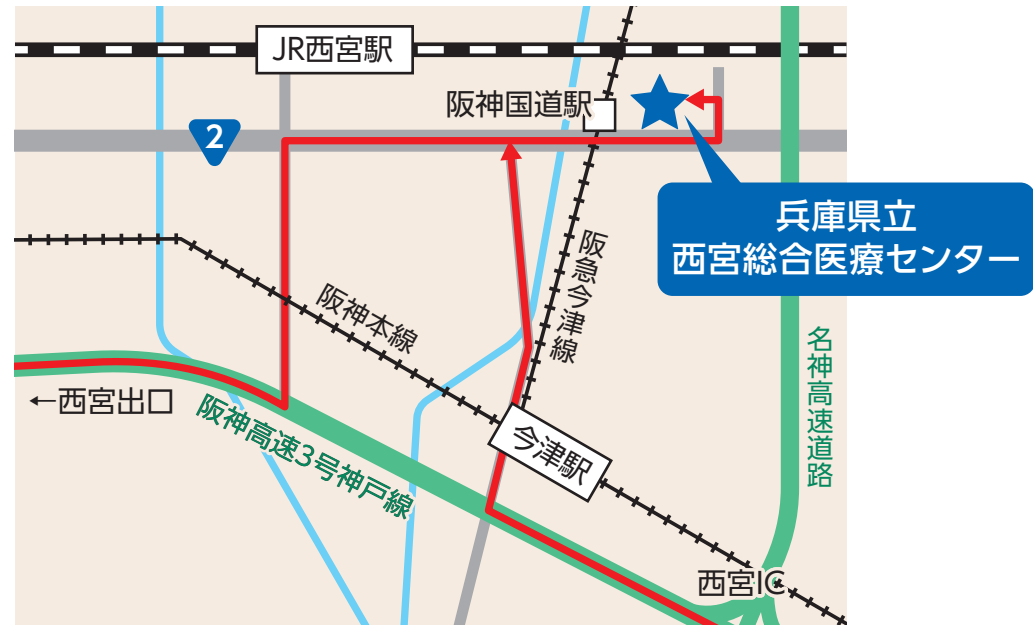


■ お車でお越しの方



- 阪神高速道路 3号神戸線西宮出口から8分(2.8km)
- 名神高速道路 西宮ICから6分(1.6km)

■ 電車・徒歩でお越しの方



- 阪急電車 阪神国道駅 徒歩2分(180m)
- JR 西宮駅 徒歩11分(800m)
- 阪神電車 今津駅 徒歩14分(1km)
- 阪神バス 阪神国道駅前 徒歩2分(130m)

兵庫県立西宮総合医療センター 開院のご案内



良質かつ安全・安心な医療で
地域に貢献する
スマートホスピタル



兵庫県立
西宮総合医療センター
Hyogo Prefectural Nishinomiya General Medical Center
開院のご案内

2026年
7月1日
開院

 兵庫県立
西宮総合医療センター
Hyogo Prefectural Nishinomiya General Medical Center

〒663-8241 兵庫県西宮市津門大塚町11-62
TEL : 0798-31-7700
FAX : 0798-31-7780

令和8年3月発行
07病@2-019A4

CONTENTS

院長挨拶	3
基本理念・基本方針	4
病院概要	5
患者総合支援センターのご案内	6
前方支援・後方支援システム	7
地域連携の推進について/ 連携登録医制度について	8

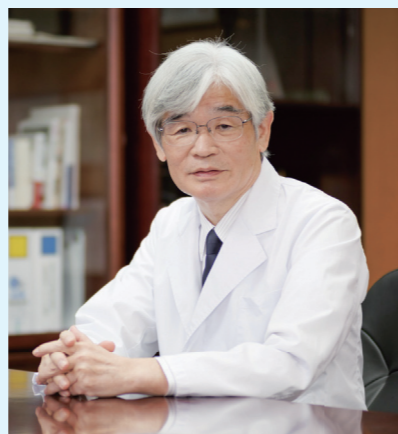
診療科のご案内

消化器内科	10	泌尿器科	25
循環器内科	11	産婦人科	26
呼吸器内科	12	小児科	27
脳神経内科	13	眼科	28
腫瘍内科	14	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	29
血液内科	15	皮膚科	30
腎臓内科	16	放射線診断科	31
糖尿病・内分泌内科	17	放射線治療科	32
リウマチ・膠原病内科	18	麻酔科	33
消化器外科	19	ペインクリニック内科／外科	34
呼吸器外科	20	リハビリテーション科	35
乳腺外科	21	救急科	36
脳神経外科	22	歯科口腔外科	37
整形外科	23	病理診断科	38
形成外科	24		

建物概要	39～40
フロアマップ	41～42

兵庫県立西宮総合医療センター

高度で良質かつ安全・安心な医療を
提供する地域のスマートホスピタル



兵庫県立西宮総合医療センター
院長 野口 眞三郎

2019年1月に「兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院の統合再編基本協定」が締結され、以後、統合新病院整備に向け全力で取り組んでまいりましたが、この度、本年7月1日に統合新病院（兵庫県立西宮総合医療センター）が無事開院する運びとなりました。

この間、コロナ禍やインフルなど病院整備に多大な影響を与える予期せぬ事象が発生しましたが、多くの方々の協力を得てこれらの困難を乗り越え、ほぼ計画どおりに病院整備を進めることができました。これまで病院整備に関わってこられた全ての方々に心より感謝申し上げます。

新病院は552床と今より一回り大きな病院となりヘリポートも整備されます。また、診療科も35診療科に増え病院機能も更に充実します。基本理念に則り、高度専門医療、救急医療、災害医療等を担うバージョンアップした地域の中核病院として、また、情報技術を駆使して医療の質向上、医療従事者の負担軽減、更には患者さんの利便性向上などを実現するスマートホスピタルとして地域医療に貢献したいと思います。

引き続きご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

基本理念

私たちは、地域の中核病院として、
高度で良質かつ安全・安心な医療を提供することにより
地域住民の健康を守ります。

基本方針

1. 倫理と人権を尊重し、患者さんと協働するチーム医療を実践します。
2. 地域住民の“いのち”を救うため高度専門医療、救急医療、災害医療に尽力します。
3. 急性期医療を担う病院として、地域の医療・保健・福祉機関との連携を推進します。
4. 最新の人工知能や情報通信技術を活用し、人に優しいスマートホスピタルを実現します。
5. 臨床研究、研修など精力的に取り組み、自己の研鑽や優れた医療人の育成に努めます。
6. 職員一人ひとりが楽しくやりがいをもって勤務できる環境づくりを推進します。
7. 将来にわたり安定して良質な医療を提供するため健全経営を推進します。



兵庫県立西宮総合医療センターは、兵庫県立西宮病院と西宮市立中央病院が担ってきた医療を引き続き提供するとともに、地域の医療機関との役割分担や連携を強化し、西宮市域および阪神圏域における高度急性期・急性期医療を担う中核的な医療機関としての役割を果たします。

また、感染症対応機能を充実・強化するほか、若手医師をはじめ、医療従事者にとって魅力ある研修プログラムを提供するなど、医師等医療従事者に対する育成・研修機能の充実を図ります。

これらにより、阪神圏域における医療の質向上と、持続可能な地域医療の発展に寄与してまいります。

病院概要

診療科

内科系	●内科 ●脳神経内科 ●リウマチ・膠原病内科	●呼吸器内科 ●糖尿病・内分泌内科	●循環器内科	●消化器内科 ●血液内科	●腎臓内科 ●腫瘍内科
外科系	●外科 ●脳神経外科	●呼吸器外科 ●整形外科	●心臓血管外科 ●形成外科	●乳腺外科 ●歯科口腔外科	●消化器外科
その他専門	●皮膚科 ●放射線診断科 ●救急科 ●小児科	●泌尿器科 ●放射線治療科 ●精神科 ●臨床検査科	●眼科 ●リハビリテーション科 ●麻酔科 ●ペインクリニック内科	●耳鼻咽喉科・頭頸部外科 ●病理診断科 ●産婦人科 ●ペインクリニック外科	

下線は新設科 ※開院に向けて既に開設した診療科を含む

病床数

開院時は502床での段階的オープンを実施
※移転に伴う患者受入調整の影響等を踏まえ、一部病棟を休止

一般病床		544床
救命救急センター	EICU	8床
	救急病棟	12床
地域周産期母子医療センター	NICU	6床
	GCU	10床
術後管理等	ICU・CCU、HCU	14床
脳卒中センター	SCU	6床
その他一般病床	一般病棟	488床
精神病床(精神科身体合併症病棟)		8床
合計		552床

主な治療・検査室および医療機器

区分	項目	数量	
主な治療・検査室	手術室	11室	
	ハイブリッド手術室	1室	
	超音波検査	10室	
	内視鏡センター検査室	6室	
	血液浄化室	15床	
	化学療法室	30床	
	救命救急センター	ハイブリッドER(2ルーム型) 初療室 救急手術室	1室 13室 1室
主な医療機器	手術室	ハイブリッドアンギオ 手術支援ロボット	1台 1台
	手術室以外	リニアック	1台
		SPECT-CT	1台
		アンギオ	3台
		MRI	3台
		CT	3台

患者総合支援センターのご案内

地域医療機関の先生方へ

新病院では、病病・病診連携における前方支援と後方支援双方においてWebブラウザシステムを導入いたします。導入に際しては当院のスタッフが先生方のもとにお伺いして、システムの内容や導入方法についてご説明させていただきます。なお、Webブラウザシステムによる連携の他に、従来の電話やFAXを介した連携方法も継続しておりますので、今後ともよろしくご依頼申し上げます。

患者総合支援センターの概要

新病院では、35の診療科に拡充され病床数は552床に増加することで、全ての疾患に対して対応することが可能となります。当センターは、新病院と地域の先生方を繋ぐ「窓口」として、DXを導入することで連携機能を全面的に強化いたします。これまで以上に、前方支援は「全ての救急・紹介患者の受け入れ」、後方支援は「スムーズな在宅・転院支援」を実現いたします。

地域医療機関との連携システムについて

前方支援

Web予約システムを導入いたします。

Webブラウザを介して、患者側が病院の受診予約、予約変更、検査予約が可能となるシステムです。24時間365日予約を受け付けることで、これまで地域の先生方が診察中に行っていた予約業務を大幅に短縮することが可能となります。

Webブラウザを介して、病院間での転院調整を行うシステムです。従来行っていた電話やFAXでのやり取りがWeb画面上で可能となり、転院調整の進捗状況が瞬時に確認でき、また病院間のやり取りをチャットを介して行うことで業務の効率化が可能となります。

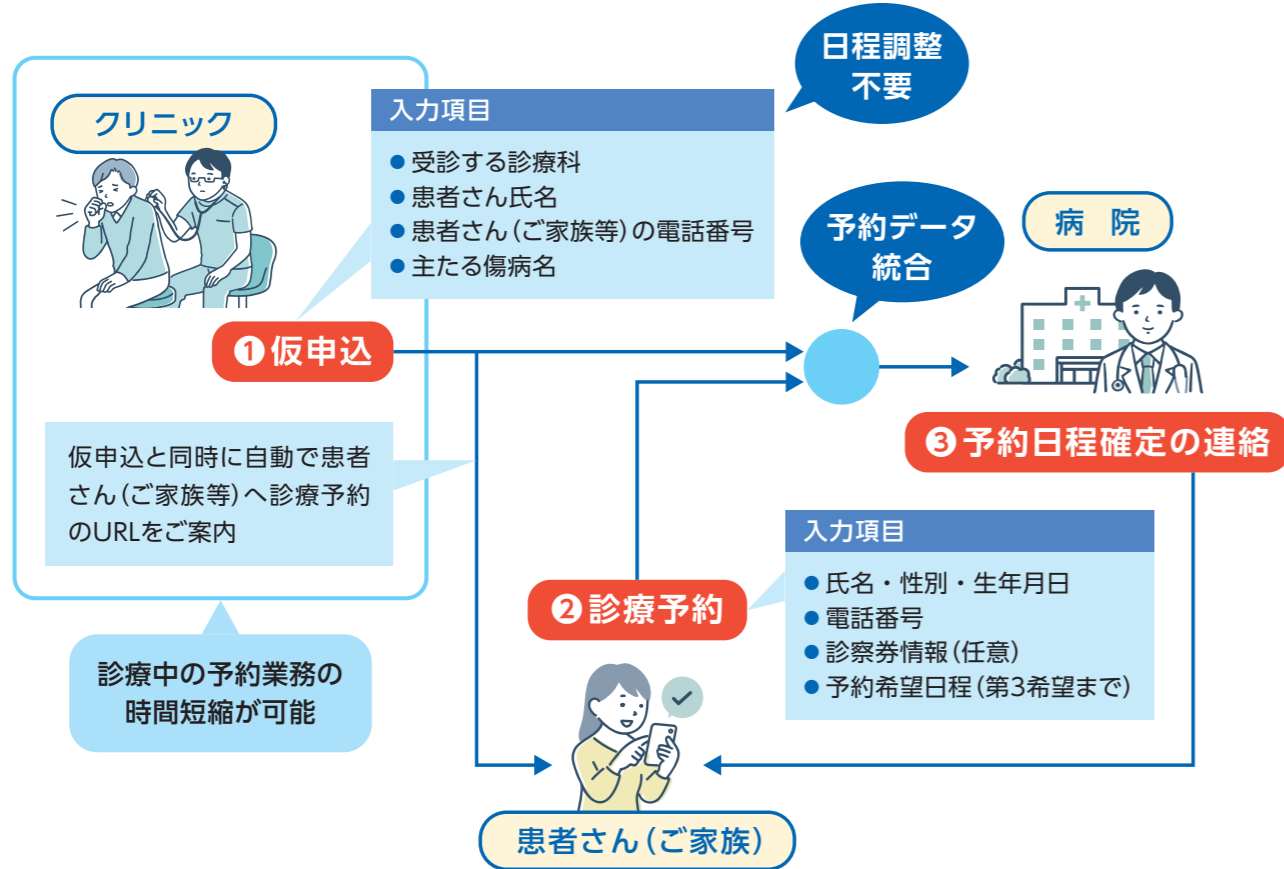
後方支援

Web調整システムを導入いたします。

前方支援・後方支援システム

前方支援システム

Web予約のステップ



後方支援システム

Web上での転院調整業務

	① 転院打診	転院決定	② 診療情報共有
	Web調整システム		診療情報連携サービス
利用目的	転院調整業務における病院間の電話・FAX業務の効率化		地域内の医療機関同士での診療情報の共有・相互参照
主な機能	<ul style="list-style-type: none"> ● 転院打診機能 ● チャット機能 ● 医療機関検索機能 		<ul style="list-style-type: none"> ● カルテ記録 / 画像参照 ● 患者メモ ● リモートカルテ
取扱情報	個人情報を取り扱わずに利用可能		個人情報を含み情報共有を行うことが前提
電カル連携	なし		あり

地域連携の推進について

前方支援

1. 地域の医療機関の先生方と連携方法

- Web予約システム (受診予約、検査予約、受診予約変更)
- 電話やFAXによる受診予約、検査予約
- 緊急時：電話 (医師間で受け入れ方法等を調整いたします)

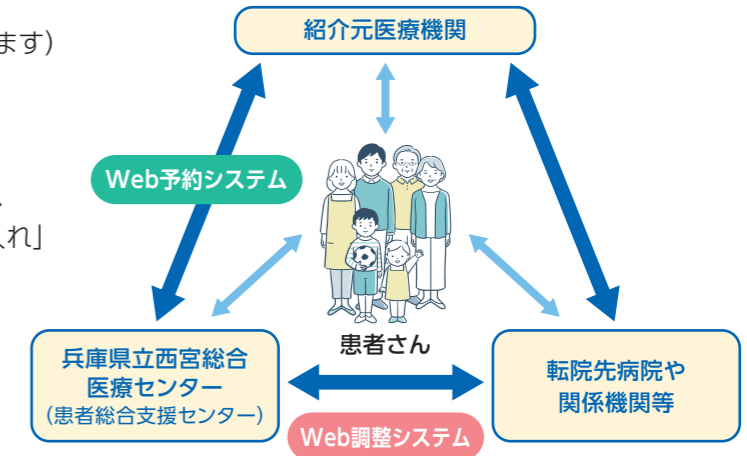
2. 地域連携の強化

- DXの導入による連携機能の強化により、迅速な「全ての救急・紹介患者の受け入れ」を行います。

後方支援

1. 転院調整方法

- Web調整システムによる「スムーズな在宅・転院支援」を実現いたします。



連携登録医制度について

新病院では、地域医療機関の先生方との連携を強化し、患者さんに継続性のある効果的な地域医療を提供するために引き続き「連携登録医制度」を設けています。連携登録医にご登録いただくと下記の連携が可能となります。

1. 病院のホームページ上で連携登録医として紹介させていただきます。
2. 開放病床において、当院の医師と共同で、患者さんの診療・指導にあたることができます。
3. CT・MRI検査等の共同利用が可能になります。
4. 当院の図書館、会議室等のスペースをご利用いただけます。
5. 院内学術講演会、カンファレンス等のご案内をさせていただきます。
6. 院内情報誌を定期的にお届けいたします。
7. 病院の連携登録医証を発行させていただきます。

私たち患者総合支援センターは、単なる窓口にとどまらず、先生方と患者さんを最良の形でつなぐ「架け橋」でありたいと考えています。ぜひ連携登録医にご登録いただくとともに、新病院・患者総合支援センターへの変わらぬご指導、ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

診療科のご案内

消化器内科



小川 弘之
(おがわ・ひろゆき)

資格等

- 日本内科学会総合内科 専門医・指導医
- 日本消化器病学会 専門医・指導医
- 日本消化器内視鏡学会専門医・指導医
- 日本肝臓学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 日本消化管学会胃腸科専門医
- 日本ヘリコバクター学会ピロリ菌感染症認定医
- 日本医師会認定産業医

地域の医療機関の先生方へ

緊密な地域医療連携と、良質で安全な「最先端医療」、「高度専門医療」を推進します。

ご紹介いただいた患者さんへの迅速な対応と、患者さんやご家族にはこの病院に紹介してもらって良かったと思っただけのような診療を目指します。

病診連携を強化し、ご紹介いただいた患者さんの検査結果や治療経過の速やかな報告と、病状が安定した患者さんは、逆紹介を基本として、地域連携支援病院としての役割を果たす所存ですので、どうぞよろしくお願いたします。

診療科の概要

- 上部・下部消化管疾患、肝・胆・膵疾患にわたる幅広い消化器内科診療を行います。
- 地域医療機関の先生方や患者さんのニーズに応えられる治療を目指すことを基本方針に診療活動にあたります。
- 消化器病センターおよび内視鏡センターでは、消化器内科、消化器外科、放射線治療科および放射線診断科、コ・メディカルとの協力体制のもと、各々の専門領域に精通した意見交換による方針決定を行い、充実した最先端の医療提供ができるよう心がけています。
- 診断・治療成績を明らかにし、努力目標を立て成長する消化器内科部門を目指して、スタッフ一同診療にあたっています。

主要対象疾患 消化器疾患すべて

肝臓部門	急性肝炎、慢性肝炎、急性肝不全、肝硬変、脂肪肝、脂肪肝炎、肝細胞癌、肝膿瘍、肝嚢胞、転移性肝腫瘍、食道/胃静脈瘤 など
胆膵部門	胆道：胆嚢結石症、総胆管結石症、胆嚢炎、胆管炎、胆嚢癌、胆管癌 など 膵臓：急性膵炎、慢性膵炎、膵癌、膵管内乳頭状粘液性腫瘍 (IPMN)、粘液性嚢胞性腫瘍 (MCN) など
消化管部門	食道：逆流性食道炎、バレット食道、食道癌、食道異物、食道狭窄、食道カンジダ症 など 胃：胃潰瘍、胃癌、胃腺腫、胃ポリープ、胃前庭部毛細血管拡張症 など 十二指腸：十二指腸潰瘍、十二指腸乳頭部癌 など 小腸(空腸・回腸)/大腸：大腸ポリープ、大腸癌(結腸癌、直腸癌)、感染性腸炎、腸閉塞症(イレウス)、虚血性大腸炎、大腸憩室炎、大腸憩室出血、潰瘍性大腸炎、クローン病、S状結腸軸捻転症 など

トピックス

- 急性および慢性肝炎、MASH、脂肪肝、肝硬変等、肝疾患全般の診断と治療
- 上部/下部消化管癌の内視鏡的粘膜下層剥離術 (ESD)
- 超音波内視鏡下の各種検査と治療
- 消化器癌に対する免疫チェックポイント阻害薬を含めた化学療法
- 急性および慢性の胆膵疾患に対する内視鏡的診断ならびに治療
- 炎症性腸疾患(潰瘍性大腸炎、クローン病など)の最新治療

循環器内科



樋口 義治
(ひぐち・よしはる)

資格等

- 日本循環器学会専門医
- 日本心血管インターベンション治療学会専門医
- 日本循環器学会フェロー
- 米国心臓病学会フェロー
- 欧州心臓病学会フェロー

地域の医療機関の先生方へ

心臓救急への対応

急を要する症例は、24時間365日の救急受け入れをいたします。

病診連携の強化

ご紹介いただいた患者さんの検査結果や治療経過については、速やかにご報告いたします。症状が安定した後は、逆紹介を基本とし、先生方との共同診療を大切にいたします。

診療科の概要

急性期から慢性期まで継ぎ目のない医療の提供

虚血性心疾患や不整脈疾患、心不全、心臓弁膜症などの心疾患に加えて、下肢閉塞性動脈硬化症などの末梢動脈疾患を対象とし、あらゆる心臓救急にも対応しています。慢性期には、再発・再入院を防ぐための薬剤調整に加えて、多職種による包括的な心臓リハビリテーションを提供します。

ハイレベルな医療の提供

低侵襲カテーテルインターベンションを基本とし、さらに高度石灰化などの治療困難な症例にも対応します。最新の知見に基づく、心筋症・慢性心不全の治療を提供します。

主要対象疾患と治療法

虚血性心疾患：狭心症、急性心筋梗塞のカテーテル手術

心不全：急性・慢性心不全の管理、再入院予防、新規薬剤導入

不整脈：カテーテルアブレーション手術、ペースメーカー植込み

末梢血管疾患：下肢閉塞性動脈硬化症、腎血管性高血圧のカテーテル手術

構造的な心疾患：弁膜症、閉塞性肥大型心筋症の薬物治療とカテーテル手術

その他：心筋炎、肺血栓塞栓症、肺高血圧症、静脈血栓症、難治性高血圧症

トピックス

救急受け入れ態勢が強化されます

循環器専門医が24時間常駐する体制となりました。急性心筋梗塞や急性心不全などの重症疾患に対し、迅速な初期対応と緊急カテーテル手術を行います。

専用のホットラインにて、循環器専門医が24時間直接お電話を承ります。

CCUを開設します

CCU(心臓集中治療室)を開設し、患者さんが一刻も早く、急性期を離脱して社会復帰できるように努めます。

呼吸器内科



合屋 将
(ごうや・しょう)

資格等

- 日本内科学会総合内科専門医
- 日本呼吸器学会呼吸器専門医・指導医
- 日本肺癌学会暫定指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 大阪大学医学部臨床教授

地域の医療機関の先生方へ

当科では、これまで同様に肺癌・間質性肺炎・呼吸器感染症など呼吸器疾患全般にわたり、ガイドラインに準じた適切で誠実な診療を心がけてまいります。

病院の規模が大きくなると、対応できる症例が増える半面、細やかな日常診療については地域医療機関の先生方のお力添えなくしては成り立たせません。

呼吸器疾患でお困りの患者さんをご紹介いただくとともに、逆紹介や地域連携につきましてもご理解とご協力を賜れますよう、よろしくお願い申し上げます。

診療科の概要

近年、診療技術の高度化により、呼吸器内科の中でも肺癌、COPD、呼吸器感染症、気管支喘息、人工呼吸/呼吸不全など、細分化された専門性が求められる傾向にあります。

当科においても、呼吸器専門医、呼吸器内視鏡専門医、がん治療認定医など専門医を常駐し、さらに教育認定施設として若手医師の育成・研鑽にも努めながら診療体制全体のレベルアップを図ります。

また、肺癌診療においては、外科や放射線科など他科とも連携し集学的治療を行ってまいります。

主要対象疾患

- 肺癌
- 慢性閉塞性肺疾患 (COPD)
- 間質性肺炎
- 気管支喘息
- 呼吸器感染症
- 慢性咳嗽
- 睡眠時無呼吸症候群(検査と診断のみ)

トピックス

気管支喘息治療における抗体療法

吸入ステロイドの普及により気管支喘息の死亡率は著明に低下しました。しかし、一部、既存の治療でもコントロール不良の難治例が見受けられます。その場合、抗体療法の上乗せが有効とされており、当院でも通院導入を行っています。安定期には地域医療機関の先生方で継続診療をお願いすることがあるかと思いますが、その際は何卒よろしくお願い申し上げます。

脳神経内科



山本 司郎
(やまもと・しろう)

資格等

- 日本神経学会神経内科専門医・指導医
- 日本脳卒中学会専門医・指導医
- 日本脳神経血管内治療学会専門医
- 日本内科学会総合内科専門医・指導医

地域の医療機関の先生方へ

スタッフは常勤医の山本・清水・林、専攻医の杉田、非常勤医の小泉の5名です。

山本は主に脳卒中を専門とし、清水・林・小泉は主に神経疾患を専門としていますが、どの医師でも専門分野に関わらず対応できます。

些細な症状から重篤な疾患が見つかる場合もあります。いつでもお気軽にご相談ください。

診療科の概要

- 2025年4月より、脳神経内科がスタートしました。
- 脳神経内科では、①脳卒中 ②神経救急 ③神経難病 ④その他の一般的神経疾患など、急性期疾患から慢性期疾患まで幅広く診療します。
- 脳卒中・神経救急などの急性期疾患が疑われる場合は、救急科・脳神経外科とも協力し、救急外来で迅速に対応します。
- tPA静注療法、脳血栓回収療法に積極的に取り組んでいます。
- 神経難病に対しては、専門的な検査・治療を進めるとともに、看護師・リハビリ療法士・ソーシャルワーカー・かかりつけ医と連携協力し、包括的な医療を目指します。

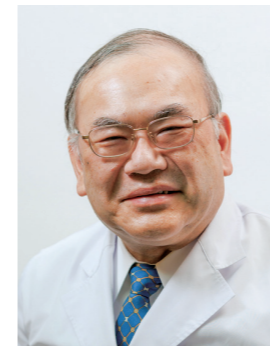
主要対象疾患

- 脳卒中 : 脳梗塞、TIA、頸動脈狭窄、脳出血
- 神経救急 : てんかん、髄膜炎・脳炎、ギランバレー、重症筋無力症
- 神経難病 : パーキンソン病、脊髄小脳変性症、多発性硬化症、ALS
- その他 : 認知症、頭痛、めまい、不随意運動

トピックス

- 2026年4月より、林(常勤医)、杉田(専攻医)が加わり、5名体制となりました。
- 2026年7月、新病院移転後より、午前の外来枠を増設します。

腫瘍内科



樋原 啓之
(ならはら・ひろゆき)

資格等

- 日本内科学会本部評議員
- 日本消化器病学会学術評議員
- 日本消化器内視鏡学会学術評議員
- 日本肉腫学会理事
- 日本レーザー医学会理事(第24回総会賞受賞)
- 日本胃癌学会西記念賞受賞
- 日本光線力学会幹事
- 日本消化器癌発生学会評議員
- 元広島大学教授

地域の医療機関の先生方へ

全国的にも珍しい急性期総合病院の腫瘍内科は、抗がん剤治療(化学療法)、分子標的薬・免疫チェックポイント阻害剤などの最新治療、がんの診断・病期および治療効果判定のための検査調整、緩和ケアチームとの連携、多職種カンファレンスでの治療方針決定を行います。支持療法(副作用対策や症状緩和)、緊急入院対応、合併症治療なども迅速に行えるのが当科の特徴です。

診療科の概要

新病院では**オンコロジーセンター**内にかんゲノム医療連携病院としてゲノム相談室を設置します。がんパネル検査を臓器別の専門チームと連携して推進し、より効果的な治療法の選択を支援します。病棟と連携して外来で治療ベッドあるいはリクライニングベッド計30床に拡充して多職種のプロフェッショナルチームが患者さん・ご家族の包括的ながん治療を実践します。臨床現場では五輪マークのように医師・看護師・薬剤師・管理栄養士・理学療法士・作業療法士・がん登録・緩和ケアチーム・患者総合支援センター(がん相談支援センター)・医師補助とオーバーラップします。また放射線治療科と連携して放射線化学療法や骨転移治療のみならず新たに専用の個室でペプチド受容体放射性核種療法(PRRT)を行います。

当院は基幹施設であり内科統括責任者として大阪府を含めてさまざまな病院と連携しています。**新専門医制度**に準拠したプログラムをインターネットに公開し、毎年約20名の内科後期研修医を受け入れて専門医資格取得支援を行っております。4月から腫瘍内科志望の専攻医が増員となります。これらの取り組みにより阪神地域全体のがん医療の質の向上に貢献します。

主要対象疾患

- 固形癌 ● 軟部肉腫 ● 消化器癌 ● 乳癌 ● 原発不明癌 ● 神経内分泌腫瘍 ● GIST
- 特に**軟部肉腫**の分子標的治療数・トラベクテジン治療数全国1位、エリブリン治療数全国3位です。乳腺外科と連携して乳癌の免疫チェックポイント阻害剤(ICI)と周術期のdose dense化学療法を行い、消化器外科と連携して進行期の膵癌・胆道癌のコンパニオン診断や抗がん剤治療を行っております。

トピックス

米国臨床腫瘍学会(ASCO)、欧州臨床腫瘍学会(ESMO)のトピックスを随時講演しております(参加費無料)。抗体薬物複合体(ADC)の適応疾患が増え、免疫チェックポイント阻害剤(ICI)と殺細胞性抗がん剤の併用療法がより早期の治療ラインとなっています。

血液内科



上田 周二
(うへだ・しゅうじ)

資格等

- 日本内科学会総合内科専門医・教育病院指導医
- 日本血液学会専門医・指導医
- 大阪大学臨床教授
- 緩和ケア研修会終了

地域の医療機関の先生方へ

当科では、白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫といった造血器悪性腫瘍はもとより、溶血性貧血、免疫性血小板減少性紫斑病といった良性血液疾患も含め幅広く血液疾患の診療を行っています。

軽度の検査異常でも遠慮なくご紹介いただけたらと思います。

診療科の概要

十分な設備

無菌室、血球分離装置等血液疾患診療に必要な設備を完備しています。

専門医による高度医療

造血器疾患に対する治療は近年著しく進歩しています。優秀な専門医による高度な専門治療を提供しています。また、他の診療科との連携もスムーズで高度な全身管理により安心して治療を受けていただけます。

丁寧な紹介対応

地域の先生方からの紹介には丁寧に対応し、原則全例迅速に受け入れいたします。

主要対象疾患

血液悪性腫瘍：急性白血病、慢性白血病、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの様々な悪性腫瘍

血液良性疾患：自己免疫性溶血性貧血などの貧血をきたす疾患や免疫性血小板減少性紫斑病などの出血性疾患など幅広く診療しています。

トピックス

近年、急性リンパ性白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫においては、従来の化学療法に加えて効果の高い免疫療法が登場し、飛躍的に治療が進歩しています。当院では高度な専門治療を提供してまいります。

腎臓内科



藤井 直彦
(ふじい・なおひこ)

資格等

- 日本腎臓学会腎臓専門医・指導医
- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医
- 日本透析医学会透析専門医
- 腎代替療法専門指導士
- 腎臓リハビリテーション指導士

地域の医療機関の先生方へ

分かりやすい説明と行動変容

複雑な腎疾患を患者さんが正しく理解し、前向きに治療(行動変容)へ取り組めるよう丁寧にサポートいたします。

「二人主治医制」による連携

地域の先生との強固な連携を基盤とし、共にチームで患者さんを支えます。困ったときにいつでも頼っていただけるスペシャリストでありたいと考えています。

診療科の概要

腎炎から移植まで

腎炎の早期診断から透析(血液・腹膜)・移植療法まで、あらゆるステージの腎疾患診療が可能です。

迅速な受け入れ体制(毎日2診)

外来は毎日2診体制とし、これまで以上に急な紹介にも対応させていただきます!

先進医療の推進

新しい医療技術や治療にも積極的に取り組みます。

多職種によるチーム医療

医師だけでなく、看護師、薬剤師、理学療法士、管理栄養士、そして地域連携スタッフが連携し、包括的な腎疾患診療と腎臓リハビリテーションを提供します。

主要対象疾患

慢性糸球体腎炎疑い：血尿、タンパク尿、ネフローゼと言われたら

保存期腎不全：健診でクレアチニンや尿素窒素の高値を指摘されたら

末期腎不全：腎代替療法が必要と指摘されたら

腎移植関連：腎移植を行うには半年近くの準備期間が必要です

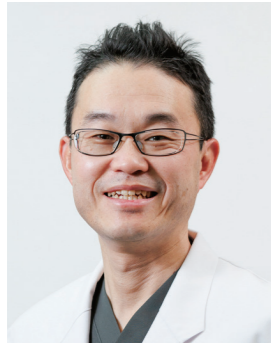
電解質異常：ナトリウム・カリウム・カルシウム・リンの異常が続く場合

トピックス

SDM外来：納得のいく治療と一緒に選ぶ外来

透析(血液・腹膜)や腎移植といった治療法について、医師や看護師とじっくり話し合い、ご自身に最適な選択をしていただくための専門外来です。現在通院中の方で、今後の歩み方に迷いを感じておられる場合でも、時間をかけて丁寧に対応させていただきます。

糖尿病・内分泌内科



芳川 篤志
(よしかわ・あつし)

資格等

- 医学博士
- 日本内科学会認定内科医・総合内科専門医・指導医
- 日本糖尿病学会専門医・指導医
- 日本内分泌学会専門医
- Infection Control Doctor (ICD)
- 臨床研修指導医養成講習会 修了
- 臨床研修医プログラム責任者養成講習会 修了

地域の医療機関の先生方へ

毎日午前午後ともに専門の医師が外来を行っており、糖尿病教育入院や内分泌疾患の精査加療のための紹介を随時受け付けております。

ご紹介いただきました患者さんにつきましては、病状が安定しましたら逆紹介させていただいております。

診療科の概要

当科は統合新病院開院に際して、正規医師7名、専攻医5名の12名体制を予定しています。

糖尿病(1型、2型、妊娠糖尿病、その他)、脂質異常症、高尿酸血症といった代謝疾患、甲状腺、下垂体、副腎、副甲状腺などの内分泌疾患の患者さんを、外来診療や教育入院を通じて、かかりつけ医の先生と協力しながら診療を行っております。

糖尿病は看護師、管理栄養士、薬剤師、臨床検査技師、理学療法士など様々な部署が協力してチーム医療を行っており、治療が円滑に進むようお手伝いしています。網膜・腎臓・神経・動脈硬化性病変などの合併症は早期発見に努めて加療を行っております。

主要対象疾患

1型糖尿病：インスリンポンプによる治療も可能です

2型糖尿病

妊娠糖尿病

肥満症

甲状腺疾患：バセドウ病、橋本病 など

内分泌疾患：下垂体、副腎、副甲状腺

トピックス

肥満症に対する薬物治療を開始しました。

- 保険適用となった2製剤(週1回の注射薬)での治療が可能です。
- 開始までに6か月間、栄養指導を受けていただいた上での食事療法が必要です。

リウマチ・膠原病内科



平野 亨
(ひらの・とおる)

資格等

- 日本内科学会総合内科専門医・指導医
- 日本リウマチ学会リウマチ専門医・指導医
- 日本アレルギー学会専門医
- 大阪大学医学部臨床准教授

地域の医療機関の先生方へ

関節リウマチや膠原病などの免疫関連疾患の診断から最先端の治療まで対応させていただきます。

また先生方との情報共有に努め、病状の安定している患者さんにつきましては共同での診療を大切にいたします。

診療科の概要

関節リウマチや膠原病の診断

病歴・身体所見、血液検査による免疫学的検査、画像検査(レントゲン、関節エコー)など専門的な視点から精査します。

治療

従来からの抗リウマチ薬に加え、生物学的製剤やJAK阻害薬などの最先端の治療も積極的に行います。

多職種による医療

医師だけでなく、看護師、理学療法士、薬剤師、管理栄養士等が連携し、包括的な診療を提供します。

主要対象疾患

関節リウマチと類縁疾患：リウマチ性多発筋痛症 など

膠原病：全身性エリテマトーデス、血管炎症候群、強皮症、皮膚筋炎、ベーチェット病、シェーグレン症候群、脊椎関節炎 など

トピックス

従来からのステロイド剤や免疫抑制薬だけでなく、新規の免疫抑制薬が使用できるようになり、関節リウマチ・膠原病ともに、寛解とその維持が現実的な治療目標となっています。

消化器外科



福永 睦
(ふくなが・むつみ)

資格等

- 医学博士
- 日本大腸肛門病学会専門医・指導医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 難病指定医
- 兵庫医科大学臨床教育教授
- 日本遺伝性腫瘍学会評議員
- 関西STOMA研究会幹事
- 臨床研修指導医養成講習会 修了
- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 修了
- がんのリハビリテーション研修 修了
- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本消化器外科学会認定医
- 日本医師会認定産業医
- 大阪大学医学部臨床教授
- 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会評議員
- 近畿外科学会評議員
- 臨床研修医プログラム責任者養成講習会 修了
- 緩和ケアの基本教育のための都道府県指導者研修 修了
- 排尿自立支援・外来排尿自立指導研修 修了



岸 健太郎
(かし・けんたろう)

資格等

- 医学博士
- 日本消化器外科学会専門医・指導医
- 日本消化器病学会専門医
- 日本食道学会食道科認定医
- ダヴィンチコンソールサーजन
- がんのリハビリテーション研修 修了
- 日本栄養治療学会認定医
- 日本消化器外科学会消化器がん外科治療認定医
- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本消化器内視鏡学会専門医
- 日本内視鏡外科学会技術認定医
- 日本がん治療認定医機構認定医
- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 修了
- 日本静脈経腸栄養学会TNT講習 修了
- 緩和ケアの基本教育に関する指導者研修 修了

地域の医療機関の先生方へ

患者高齢化に伴い、併存疾患を有する患者さんがほとんどです。がんだけでなく、胆摘・ヘルニア手術など良性疾患においても、診療科の多い当院では、手厚いバックアップ体制で対応可能です。悪性疾患はかかりつけ医との共同診療でフォローアップしていきます。術後消化管内視鏡followは、逆紹介させていただいております。

診療科の概要

がんのロボット・低侵襲手術と集学的治療の実践、急性腹症にも対応

上部消化管・下部消化管・肝胆膵各グループが高い専門性をもって診療にあたります。ハイボリュームセンターでの手術経験年数が長いスタッフがそろっており、安全で質の高い治療を提供します。外科系各学会の専門医、指導医、技術認定医等を取得したスタッフがチームで診療にあたります。技術認定医が増員されました。

主要対象疾患

- 消化器の良性・悪性腫瘍(食道・胃・十二指腸・大腸・肝臓・胆嚢・膵臓・小腸)
- ヘルニア(食道裂孔・臍・尿管・大腿・閉鎖孔)
- 胆道系結石症
- 腹膜炎手術
- バイパス手術
- 痔核・痔瘻
- 虫垂炎
- 腸閉塞
- 直腸脱
- 弓状靭帯症候群

トピックス

胃癌 ロボット手術の復活

昨年度は胃切除件数が大幅に増加し、ロボット手術の再開が可能となりました。

ハイブリット手術室

透視/造影併用で精度の高い手術が可能となりました。

若手医師の育成

大阪大学消化器外科主催の専攻医腹腔鏡手術コンテストで3年連続上位入賞者を輩出しています。

呼吸器外科



桧垣 直純
(ひがき・なおずみ)

資格等

- 日本外科学会専門医・指導医
- 日本呼吸器外科学会専門医・評議員
- 日本呼吸器学会専門医・指導医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 肺がんCT検診認定医師

地域の医療機関の先生方へ

呼吸器外科の対象疾患の中心は、原発性肺癌、気胸などです。高齢者や多数の併存症をもった患者さんが多く、特に肺気腫や間質性肺炎の合併時には、治療に難渋することも多くあります。特に術後の長期的予後は、きめ細かい管理が重要です。地域の先生方とともに、肺炎を中心とした合併症を起こさないよう努めてまいります。予防を含め診療にご協力いただければ幸いです。

診療科の概要

呼吸器センターを中心に、診療科の枠組みを超えて、より効率的な診断、治療を行っています。医師、看護師のみならず薬剤師、臨床検査技師、理学療法士を含めたチーム体制が特徴です。

内科、外科、放射線診断科、放射線治療科のそれぞれの呼吸器専門医が集まり個々の症例について、呼吸器カンファレンス(カンサーボードを含む)で検討しています。特に外科的治療に関しては低侵襲を基本に安全性と根治性を損なわないことを考慮しつつ、過不足のない切除を目標に最新かつ最良の治療を提供できるよう努力しています。術前の呼吸機能評価や術後の呼吸器リハビリなどメディカルスタッフの貢献度が大きく、術後合併症を予防しているものと考えます。

主要対象疾患

- 腫瘍性肺疾患：原発性肺癌、転移性肺腫瘍、良性肺腫瘍
- 縦隔腫瘍：胸腺腫、胸腺癌、胚細胞性腫瘍、悪性リンパ腫など
- 嚢胞性肺疾患：原発性・続発性自然気胸
- 胸膜疾患：悪性胸膜中皮腫など
- 感染性疾患：肺化膿症、膿胸など

トピックス

原発性肺癌の治療では、抗がん剤を中心とした近年の集学的治療の進歩により、術前あるいは術後の周術期治療を積極的に行い、生存率の向上に努めています。遺伝子検査など個別化治療がすすみ、免疫チェックポイント阻害剤や分子標的薬など専門性がさらに高くなっています。今後の肺癌専門医の育成のため、2026年1月より日本肺癌学会の認定施設にも指定されました。今後ともよろしくお願いいたします。

乳腺外科



小西 宗治
(こにし・むねはる)

資格等

- 日本乳癌学会乳腺専門医・指導医
- 日本外科学会外科専門医
- 日本がん治療認定医機構がん治療認定医
- 検診マンモグラフィ読影認定医
- 乳がん検診超音波検査実施・判定医師
- 日本乳房オンコプラスティックサージャリー学会責任医師・実施医師
- 神戸大学医学博士

地域の医療機関の先生方へ

患者さんが地域で安心して継続診療を受けられるように、**乳腺かかりつけ医を持つことを推奨**しております。その一環として**地域連携パスを整備し、利用率100%を目標**に運用しております。
乳癌だけでなく**診断が困難な症例**などもご紹介ください。

診療科の概要

専門的乳腺診療

外科的治療、内科的治療、遺伝診療まで一貫して対応可能な体制を整えております。形成外科と連携し、乳房再建を含めた外科治療を院内で完結することが可能です。

遺伝性乳癌卵巣癌症候群 (HBOC) に対する診療

リスク低減乳房切除 (RRM)、遺伝カウンセリングにも対応しており、予防医療の観点からも包括的な乳腺診療を行っています。

主要対象疾患

- 乳癌(原発乳癌、転移・再発乳癌)
- その他悪性腫瘍
- 乳腺良性腫瘍
- 診断が困難な症例、石灰化病変など
- 遺伝性乳癌卵巣癌症候群に対する対応

トピックス

形成外科と協力し、乳房再建を含めた外科治療を行っています。腫瘍だけでなく、石灰化や乳頭分泌など多様な乳腺病変に対する精査にも対応しており、トモシンセシスガイド下生検を含む精度の高い診断を心がけています。診断確定後は、比較的早期に治療方針を決定し、治療開始へつなげています。

脳神経外科



西田 武生
(にしだ・たけお)

資格等

- 日本脳神経外科学会専門医・指導医・代議員
- 日本脳神経血管内治療学会専門医・指導医
- 日本脳卒中学会専門医・指導医
- フローダイバーター (PIPELINE、FRED) 留置術実施医
- ONYX、ヒストアクリル液体塞栓実施医

地域の医療機関の先生方へ

病診連携の強化

「脳の病気かな?」と心配される患者さんは脳神経外科宛でも脳神経内科宛でも結構です、ご紹介いただければ当院で適切に診療させていただきます。また急を要する脳卒中疑い症例は、**脳卒中ホットライン**にて24時間直接お電話を承り、迅速に治療させていただきます。

診療科の概要

低侵襲な血管内手術を推進しています

脳動脈瘤や血管狭窄に対してはカテーテル手術を中心に行っております。麻酔科医による安全な全身麻酔下でのカテーテル手術が実施できる環境も整えています。また、複雑な血管病変には外科手術とカテーテル手術を複合させたハイブリッド手術も行っています。

24時間365日の脳卒中救急体制

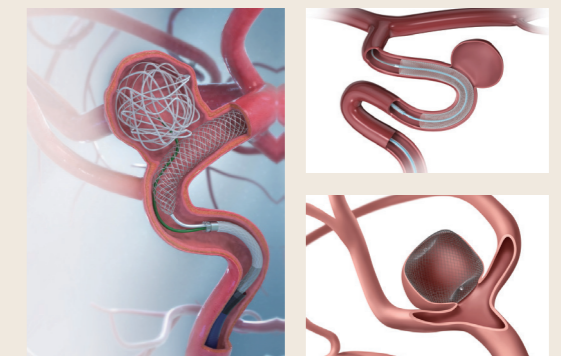
脳外科医や脳内科医が常駐し、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血など脳卒中全般に対応し、迅速な初期治療や緊急手術、緊急カテーテル手術を行っています。

主要対象疾患

- 頭頸部血管障害**：脳動脈瘤、頸動脈狭窄、硬膜動静脈瘻、脳動静脈奇形、くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、鎖骨下動脈狭窄 など
- 脳腫瘍**：髄膜腫、神経膠腫、悪性リンパ腫、転移性脳腫瘍 など
- その他**：水頭症、てんかん など

トピックス

超緊急のカテーテル手術や開頭手術にも対応できる設備も備え、脳神経外科医6名と脳神経内科医4名の充実した体制であらゆる神経疾患に適切迅速に対応してまいります。
脳動脈瘤に対するflow diverter留置術やW-EB留置術など最新の脳血管内手術も実施可能で、低侵襲で安全な最先端の医療を提供してまいります。





新倉 隆宏
(にいくら・たかひろ)

資格等

- 日本専門医機構・日本整形外科学会認定整形外科専門医
- 日本整形外科学会認定スポーツ医
- 臨床研修指導医養成講習会修了
- 神戸大学医学部臨床教授
- 日本骨粗鬆症学会認定医
- 日本整形外科学会認定運動器リハビリテーション医
- がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了

地域の医療機関の先生方へ

当院では整形外科のすべての分野において質の高い診療を行う、地域の患者さん・先生方のお役に立つことを常に意識しております。当院では整形外科医師が24時間・365日常駐しております。休日でも時間外でも整形外科の当直医がおります。お困りの際はいつでもご連絡ください。

診療科の概要

外傷再建センター

急性期の骨折から、感染性偽関節など難治化した症例まですべて対応できます。

人工関節センター

股関節、膝関節の人工関節手術を専門的に実施しています。適応症例にはUKAも実施しています。

脊椎疾患の手術治療

脊椎外傷から慢性疾患まで、頸椎から腰椎まで幅広く対応しています。脊椎転移の手術治療や、脆弱性椎体骨折に対する経皮的椎体形成術も積極的に実施しています。

主要対象疾患

外傷：骨盤骨折・多発骨折・開放骨折など重度外傷から、大腿骨近位部骨折・椎体骨折・橈骨遠位端骨折など脆弱性骨折まですべて

難治性骨折：偽関節、変形 など

脊椎疾患：椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など頸椎・胸椎・腰椎すべて

関節疾患：変形性股関節症、変形性膝関節症 など

骨粗鬆症

骨関節感染症：骨髄炎、化膿性関節炎 など

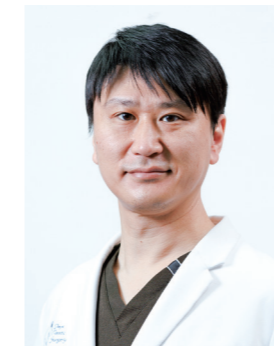
トピックス

2026年7月開院予定の新病院では、人工関節ロボット：MAKOを導入します。

兵庫県においてロボット人工関節手術を実施している病院は少ないです。ロボットを積極的に活用していきます。

整形外科手術枠の増加

新病院では整形外科手術枠が増加しますので、ご紹介いただいた患者さんをお待たせすることなく、手術させていただくことが可能になります。



佐藤 誠
(さとう・まこと)

資格等

- 博士(医学)
- 皮膚腫瘍外科分野指導医
- がん治療に携わる医師に対する緩和ケア研修会修了
- 神戸大学臨床准教授
- 日本創傷外科学会専門医
- 形成外科分野指導医
- 乳房再建用エキスパンダー/インプラント責任医師
- 臨床研修指導医講習会修了

地域の医療機関の先生方へ

「形成外科」と聞いても対象疾患がピンとこず、何を紹介したらいいかわからない、というお声をよくいただきます。「目に見える場所の外科」とひとまずお考えください。まだまだ歴史の浅い、なじみの薄い診療科ではありますが、実はその守備範囲は非常に広く、多岐にわたっています。

顔の外傷はもちろん、熱傷、あらゆる皮膚腫瘍、眼瞼下垂などのcommon diseaseから、乳房再建、慢性創傷、わきがに至るまで、さまざまな症例のご紹介をいただいています。

診療科の概要

常勤医師3名・非常勤医師1名の4名体制

(現在、当科所属医師の全員が形成外科専門医の資格を保持しており、地域のみなさまに高度な専門的治療を安定的に提供することができます。)

「外見」「見た目」に関して、身体のあらゆる部位の、あらゆる病態を対象としています。皮膚のできもの一つにしても、「きれいに」「早く」「確実に」治すことが形成外科の使命と考えています。また、従来は医師・患者さん双方が「仕方のないもの」「治らないもの」としてあきらめていた疾患・病態に対しても、形成外科ならではの視点から、新たな解決策を提案できるかもしれません。形成外科と出会えて良かった、とおっしゃってくださる患者さんの笑顔を見ることが、私たちの喜びです。これからも皆様のQOLを底上げし、地域の健康福祉に寄与することを目指してまいります。

主要対象疾患

- 顔面外傷
- 眼瞼下垂(先天性、加齢性、コンタクトレンズによるもの)
- 耳介変形やでべそ等、体表の先天異常全般
- 皮膚腫瘍や皮下腫瘍(BCCやSCCなどの皮膚がんも含む)
- 茶あざや青あざのレーザー治療
- きずあと(肥厚性瘢痕)やケロイド、ひきつれ
- 頭頸部がんの再建
- 顔面骨折(ブローアウト、鼻骨、頬骨、上顎、下顎、多発骨折など)
- 顔面神経麻痺の後遺症
- 多指症や合指症(手足)
- 腋臭症
- 褥瘡
- 足潰瘍(動脈性・静脈性)
- 熱傷
- リンパ浮腫
- 乳癌術後の再建 など

トピックス

「乳房再建センター」の開設(一次・二次、人工物・自家組織 あらゆるニーズに対応)

2026年2月～当院では本格的に、乳癌患者の術後QOLを維持・向上させるための取り組みが始まっています。乳腺外科・形成外科を中心とした多職種・複数科が連携する乳房再建センターが開設されました。

日本人女性の9人に1人が乳癌に罹患する時代です。乳癌になっても、女性としてのアイデンティティーを保ち、生き生きと過ごしていただくために、心身両面での回復を全力でサポートさせていただきます。

泌尿器科



岸川 英史
(きしかわ・ひでふみ)

資格等

- 日本泌尿器科学会専門医・指導医
- 日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会腹腔鏡技術認定医
- 「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会」修了
- ダ・ヴィンチコンソールサーजन
- 日本臨床腎移植学会腎移植認定医
- 日本移植学会代議員/移植認定医
- 臨床研修指導医養成講習会 終了
- 日本アンドロロジー学会評議員
- 医学博士

地域の医療機関の先生方へ

一般的な血尿、排尿障害、PSA高値などの精査はもちろん、泌尿器科的な緊急処置が必要な患者さんや重症症例の受け入れを積極的に行っています。また紹介していただいた患者さんの精査や入院治療が終了した際にはできるだけ早く先生方と協力し、連携をとるようにしています。

診療科の概要

泌尿器癌に対しては早期発見、早期治療を心がけています。これら悪性腫瘍の治療では患者さんのQOLを重視し、手術療法のみならず、抗がん剤、ホルモン剤などの薬物療法や放射線療法などによる集学的治療を行っています。特に腹腔鏡手術には積極的に取り組んでおり、手術創が小さく従来の開腹手術より疼痛が少ないため歩行・摂食開始までの期間、入院期間が短くなっています。

腎移植手術の実施とそのため組織適合性検査を行っています。1973年の第1例目以来、2025年末で744例(生体腎577例、献腎167例)の腎移植を行っています。スタッフには3名の日本移植学会・日本臨床腎移植学会の認定医が揃っており、豊富な経験をもとに月間2例、年間約15~20例の腎移植を施行しています。

主要対象疾患

- 悪性腫瘍：腎、腎盂尿管、膀胱、前立腺、精巣などの泌尿器癌
- 尿路結石：ESWL、TUL、PNLすべて可能
- 排尿障害：前立腺肥大症、過活動膀胱、神経因性膀胱 など
- 慢性腎不全：生体腎移植、献腎移植のいずれも対応

トピックス

2015年12月からダヴィンチを用いたロボット手術を導入しています。ロボット手術では高画質な3Dハイビジョンシステムの手術画像と人間の手の動きを正確に再現できるため、がんの精密な切除、出血の抑制、入院期間の短縮などの利点があります。

当院では院内で組織適合性検査が行えるため、腎移植の術前拒絶反応リスク予測や術前脱感作療法、術後拒絶反応の診断・治療が速やかに施行可能です。

産婦人科



橋本 香映
(はしもと・かえ)

資格等

- 日本産婦人科学会専門医・指導医
- 臨床遺伝専門医
- 臨床研修指導医養成講習会修了
- 新生児蘇生法Aコース修了
- 医学博士
- 日本婦人科腫瘍学会 代議員
- 遺伝性腫瘍専門医
- 緩和ケア研修会修了
- J-MELS ベーシックコース修了
- がん治療認定医
- ダヴィンチサージカルシステム術者資格認定
- 母体保護指定医
- PCキューブコース修了

地域の医療機関の先生方へ

専用ホットラインを開設します

新病院では、緊急症例はホットラインで24時間直接お電話を承ります。

婦人科腫瘍専門医、周産期専門医、内視鏡技術認定医、女性のヘルスケア専門医が在籍しており、産科・婦人科ともに幅広く診療しておりますので、どのような症例でもお気軽にご相談ください。

診療科の概要

●産科

地域周産期センター、周産期救命救急センター

最重症妊産婦を含むハイリスク周産期症例を受け入れます。脳出血、産褥出血などは救命救急センターで救命医とともに対応します。早産は妊娠32週以降が対象です。

救急症例だけでなく、新病院ではLDRなどの設備も充実し、合併症のない妊婦さんにも満足いただける環境が整いました。合併症の有無にかかわらず、安心・安全であることはもちろん「いいお産」であったと思っていただけるようスタッフ一同でサポートいたします。

●婦人科

良性～悪性症例まで、鏡視下手術(腹腔鏡、ロボット支援下、vNOTES、子宮鏡)、開腹手術、腔式手術と幅広く行っています。思春期～老年期までエビデンスに基づいた医療を提供いたします。新病院では手術枠の増枠に伴い、悪性疾患の手術までの待機期間をより短縮いたします。

主要対象疾患

- 周産期全般：合併症のある妊婦さんも広く受け入れます。双胎は経膈分娩にも対応しております。
- 婦人科良性疾患：手術適応に悩む症例もまずはご紹介ください。
- 婦人科悪性疾患：集学的治療であらゆる悪性疾患に対応いたします。
- 女性のヘルスケア：思春期の月経関連症状、老年期の骨盤臓器脱、その他治療に難渋する月経困難症などあればご相談ください。

トピックス

無痛分娩

2026年1月より、麻酔科と協力して安全・安心な体制を整え開始しました。無痛分娩を希望される経産婦さんがおられましたら、ご紹介ください。

小児科

高桑 聖

(たかくわ・さとし)

資格等

- 日本小児科学会専門医・指導医
- 日本内分泌学会専門医・指導医
- 日本小児内分泌学会評議員
- 日本周産期新生児医学会暫定指導医
- 出生前コンサルタント小児科医
- 小児成長ホルモン適正使用推進委員会地区委員

地域の医療機関の先生方へ

小児科スタッフのそれぞれの専門分野の知見を活かし、多角的な判断によるチーム医療を行っています。

地域の中核となる小児入院施設として、特に夕方の緊急紹介に対応できるように努めます。

分娩施設退院前の新生児搬送は24時間365日対応しています。お迎え搬送や立会分娩には対応していません。

診療科の概要

常勤医12名(小児科専門医9名)、専攻医2名

内分泌専門医、循環器専門医、新生児専門医あり

病床数 一般小児病床16床、NICU6床、GCU10床

新生児および小児の地域中核の病院施設として、市中感染症だけでなく、各種小児領域についても専門医のもと精査加療を行っています。当院で対応困難な症例には高次医療機関との迅速な連携を行っています。

主要対象疾患

- 市中感染症などの急性期疾患、慢性的な諸症状
- 各種小児専門領域(内分泌、循環器、神経、アレルギー、腎臓 など)
- 新生児医療(小児外科疾患を除く)、成長発達に関する諸問題
- 各種検査(内分泌負荷試験、食物チャレンジテストなど)および教育入院

トピックス

- 小児科外来には伝染性の高い感染症のための診察室を設置。
- 一般小児病棟は全て個室とし、重症治療室や陰圧室も設置。
- 新生児病棟は院内感染対策として十分な室内空間を保ち、特にNICUは半個室化しゆとりのある環境を提供、NICUとGCUには感染症対策として陰圧室も設置。

眼科



小林 礼子

(こばやし・れいこ)

資格等

- 医学博士
- 眼科専門医
- 水晶体嚢拡張リング認定医
- アイフレイルアドバイザー
- 羊膜移植術認定医
- ボトックス認定医

※新病院の開院後、新たな診療科長へ交代予定です。

地域の医療機関の先生方へ

迅速なフィードバック

ご紹介いただいた患者さんの治療経過については速やかにご報告いたします。

病診連携の強化

緊急な治療を要する症例にも可能な限り対応いたします。お急ぎの場合はお電話で遠慮なくご連絡ください。当科での必要な治療終了後は可能な限り速やかに逆紹介する方針です。また時に当科での治療を必要とする慢性疾患には併診で対応させていただきます。

診療科の概要

アイセンター開設

新病院で眼科はアイセンターとして始動します。眼科専用手術室での手術が可能ですので、緊急疾患にも迅速に対応します。

低侵襲手術の推進

現在硝子体手術は25Gを採用していますが、新病院では27Gにも対応可能です。また緑内障手術はMIGSに力を入れています。

チーム医療

センター化によりスタッフも専門知識を身につけ、トータルに患者さんに寄り添う医療を目指します。

主要対象疾患

白内障：小瞳孔、チン小帯脆弱など難症例や水晶体・IOL脱臼にも対応

緑内障：トラベクトミー、眼内ドレーン留置、濾過手術

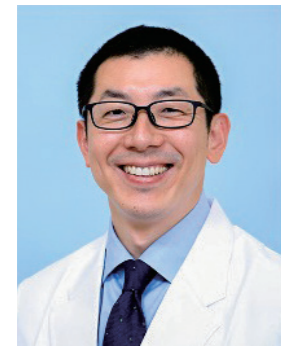
網膜硝子体疾患：メディカル、サージカルに幅広く対応

角結膜疾患：角膜感染症、翼状片、結膜弛緩症、結膜腫瘍、ドライアイ、アイペイン など

トピックス

- 眼内レンズは乱視矯正、選定療養による多焦点IOLにも対応いたします。
- 新病院では、リハビリ室にベッドを4台設置し、日帰り手術の対応が可能となりますが、入院手術が必要な方には柔軟に対応いたします。

耳鼻咽喉科・頭頸部外科



曹 弘規
(ちょう・ひろのり)

資格等
●日本耳鼻咽喉科・頭頸部外科学会専門医・指導医

地域の医療機関の先生方へ

緊急時などは可能な限り対応させていただきます。ご要望があれば何なりと申し付けください。

統合に伴い、これまで以上に地域医療の先生方と緊密に連携していきたいと考えています。患者さんのご紹介をお願いいたします。

診療科の概要

病院統合に伴い、耳鼻咽喉科・頭頸部外科全般の疾患に対応可能な体制となっています。

これまでどおり、鼻科手術を中心とした手術に加えて、頭頸部腫瘍疾患に対する手術治療も行います。また、入院加療の必要な急性疾患も積極的に対応いたします。

主要対象疾患

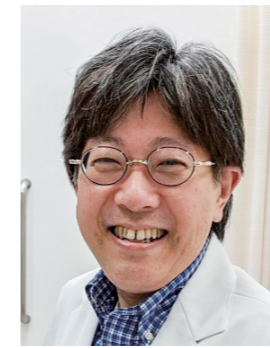
- 頭頸部癌・甲状腺癌
- 慢性副鼻腔炎・鼻副鼻腔疾患(アレルギー性鼻炎、鼻中隔湾曲症など)
- 扁桃・アデノイド、声帯などの疾患
- 突発性難聴
- 唾液腺腫瘍など頸部腫瘍・甲状腺腫瘍
- 急性上気道炎(扁桃周囲膿瘍、喉頭蓋炎など)
- 顔面神経麻痺

トピックス

甲状腺癌に対する放射性ヨード治療(アブレーション)

甲状腺癌術後の再発・転移に対して放射性ヨード治療が可能になります。再発率や死亡率の低下に寄与することが期待されます。

皮膚科



山本 哲久
(やまもと・あきひさ)

資格等
●日本皮膚科学会専門医・指導医

地域の医療機関の先生方へ

西宮市内でも数少ない入院病床を持つ皮膚科として、入院が必要な症例、悪性腫瘍、救急症例も積極的に受け入れていきます。診断、治療にお困りの症例がございましたら、是非お気軽にご紹介ください。

診療科の概要

皮膚科は、爪、毛髪を含めた全ての皮膚疾患を対象とし、日本皮膚科学会のガイドラインに基づいて、質の高い皮膚科診療と患者さん本位の診療をすべく努力しております。

皮膚科疾患は、内科的疾患や血管病変の一部として、皮膚症状に現れるものも多くあります。これらを正確に診断し、総合病院の利点を活かして、他科と連携しつつ治療をするよう心がけております。近年増加傾向の皮膚悪性腫瘍に対しても、皮膚生検、ダーモスコピー、画像診断などを用いて診断し、手術療法、放射線治療、化学療法など集学的な治療を行っております。またアトピー性皮膚炎、尋常性乾癬、蕁麻疹、円形脱毛症などに対して、様々な生物学的製剤やJAK阻害薬などの新規薬剤で治療できるようになっていますが、それらに対して適応を見極めつつ、積極的に導入も行っています。

主要対象疾患

- 湿疹、皮膚炎(紅皮症、アトピー性皮膚炎 など)：生物学的製剤
- じんましん(アナフィラキシー など)：生物学的製剤
- 薬剤アレルギー(多形滲出性紅斑、重症型薬疹)：皮膚テスト、各種負荷検査
- 水疱症(類天疱瘡、尋常性天疱瘡 など)
- 乾癬：下紫外線療法(ナローバンドUVB)、生物学的製剤
- 皮膚潰瘍、熱傷
- 毛髪疾患(円形脱毛症など)：ステロイドパルス、JAK阻害薬
- 爪疾患(陥入爪、爪白癬など)：人工爪、ワイヤー、フェノール法 など
- 細菌感染症(丹毒、蜂窩織炎 など)
- ウイルス感染症(帯状疱疹、水痘 など)
- 血管炎(アナフィラクトイド紫斑 など)
- 膠原病(SLE、皮膚筋炎、強皮症 など)
- 皮膚腫瘍：手術、化学療法、放射線治療

トピックス

アトピー性皮膚炎の病態

近年アトピー性皮膚炎は「表皮バリア機能異常」「2型免疫反応を主体とするアレルギー炎症」「かゆみ」が相互に作用して病態を形成する三位一体論で理解されています。表皮バリア機能異常は、遺伝的な要因も含むフィラグリン発現低下やロリクリンの低下も関係していて、これらのタンパク質の増加作用のある外用薬も開発されています。また、2型免疫反応は、特にIL4、IL13、IL31が病態に関与することが分かってきており、それぞれに対して特異的に作用する生物学的製剤やJAK阻害薬が発売されています。

放射線診断科



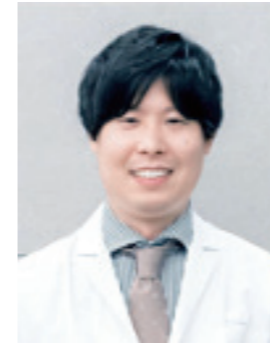
岩間 祐基
(いわま・ゆうき)

資格等
● 医学博士 ● 日本医学放射線学会診断専門医・指導医 ● 臨床研修指導医養成講習会 修了

地域の医療機関の先生方へ

依頼された画像検査に対し、最新の医療機器を用い、最適な撮像法で検査を施行します。当院の常勤医である診断専門医が、迅速で正確な画像診断レポートを発行させていただきます。

放射線治療科



梶原 彰文
(かじはら・あきふみ)

資格等
● 日本医学放射線学会
放射線治療専門医

地域の医療機関の先生方へ

放射線治療科では、原則として各診療科からの紹介を元に診療を行います。ご紹介いただいた患者さんについては、主科の先生方と密に連携し、適応の判断や治療を進めてまいります。治療方針や経過については適宜情報共有し、円滑な共同診療に努めます。

また当科では、がんによる疼痛、出血、気道狭窄、神経症状などの症状緩和を目的とした緩和照射の紹介も積極的に受け入れております。患者さんの負担軽減と迅速な症状緩和を重視し、可能な限り速やかに治療開始できるよう対応いたします。

診療科の概要

放射線診断科は、画像診断機器を用いた診断に特化した診療科です。近年の診断機器の進歩は著しく、その検査および診断には高い専門性が求められます。具体的には、各診療科から依頼されたCT・MRI・核医学の検査の診断を行っています。

また、血管造影や放射線診断機器を用いた低侵襲治療(インターベンショナル・ラジオロジー)も施行しています。

主要対象疾患

血管造影を用いた診断と治療

- 肝腫瘍
- 脾腫瘍
- 胆道腫瘍
- 腎腫瘍
- 動脈瘤や動静脈瘻
- 胃静脈瘤
- 内分泌腫瘍 など

トピックス

近年、人工知能(AI)技術の医療分野への応用が進んでいますが、画像診断の領域も例外ではありません。当院では、最新のAI機能搭載のビューワを導入し、診断精度の向上と読影業務の効率化に努力しています。

診療科の概要

手術や薬物療法と並ぶがん治療の柱である放射線治療を、患者さんの病状と生活背景に合わせて提供します。治療方針は、院内の各診療科と連携しながら、根治を目指す治療から症状緩和を目的とした治療まで幅広く検討します。

治療中のサポート

副作用の予防・早期対応を行い、必要に応じて支持療法や他科受診につなげます。

通院治療への配慮

多くの治療が通院で可能であり、生活への影響を最小限にすることを重視します。

主要対象疾患

- 頭頸部**：口腔、咽頭、喉頭癌
- 脳腫瘍**：良性、原発性・転移性脳腫瘍
- 呼吸器**：肺癌
- 乳房**：乳癌
- 消化器**：食道、直腸、膵臓、肝臓癌
- 泌尿器**：前立腺、膀胱癌
- 婦人科**：子宮頸癌、子宮体癌
- 造血器**：リンパ腫 など
- 転移性病変**：骨転移、脳転移 など
- 緩和的治療**：疼痛、出血、気道狭窄 など

トピックス

多職種チームによる治療運用

放射線治療医、診療放射線技師、看護師、医学物理士等が連携し、治療の安全性と支持療法の質向上に取り組めます。

根治から緩和まで一貫対応

症状緩和を目的とした短期照射にも対応し、早期の症状改善と生活の質向上を目指します。

相談しやすい窓口

治療適応の迷いがある段階でも、画像・病理・治療歴を踏まえて照射の可否や選択肢をご提案します。

森 美也子
(もり・みやこ)

資格等

- 厚生労働省麻酔科標榜医
- 日本麻酔科学会指導医
- 日本専門医機構麻酔科専門医
- 日本周術期食道心エコー認定試験(JB-POT)合格
- 臨床研修指導医養成講習会修了
- 医学博士

地域の医療機関の先生方へ

手術を受ける患者さんのかかりつけの先生方へ治療内容を問い合わせることや、抗血栓薬の休薬についてお願いをすることがあります。

かかりつけ歯科医で周術期口腔管理をお願いすることがあります。質の高い周術期管理を提供するため是非ご協力のほどよろしくお願いいたします。

診療科の概要

麻酔を専門とする17名の医師が非常勤医師・研修医師とともに手術麻酔を担当します。

術後鎮痛に力を入れており、硬膜外麻酔や神経ブロックを全身麻酔に積極的に併用しております。術後疼痛管理チームを率いて、『痛くない手術』を多職種で提供しています。

緊急手術、硬膜外分娩(いわゆる無痛分娩)、全身麻酔下脳血管内治療に対応しています。Rapid Response Systemにも参画し、院内急変予防に貢献しています。

主要対象疾患

呼吸器外科、消化器外科、乳腺外科、産婦人科、泌尿器科、頭頸部外科、耳鼻咽喉科、整形外科、脳神経外科、形成外科、皮膚科、歯科口腔外科など全ての診療科の手術に対応しています。

充実した台数の超音波機器や気管支ファイバーを用いて安全かつ確実に手技を行っており、特に全国トップの症例数を誇る骨盤骨折に対しては先進的な鎮痛方法を取り入れて『痛くない手術』を提供しています。

トピックス

- 手術が決まった時点から患者総合支援センターで多職種と連携し、標準化した合併症管理を行うことで安全性・満足度を高め、術後早期回復に貢献します。
- 説明動画支援サービスなどのDXを活用し、患者さんに安心な医療を提供します。
- 侵襲が大きい手術では機械式PCAを用いて精密な鎮痛を提供します。



前田 倫
(まえだ・りん)

資格等

- 日本麻酔科学会指導医
- 日本専門医機構麻酔科専門医
- 日本ペインクリニック学会専門医
- 日本頭痛学会指導医
- 日本緩和医療学会指導医
- 大阪大学麻酔科学教室臨床教授
- 兵庫医科大学麻酔科・疼痛制御科臨床教授

地域の医療機関の先生方へ

あらゆる痛みを対象に、痛みの本質を見据えて適切な治療を行います。外来4診。神経ブロックは、透視下+超音波ガイド下14床で運用。入院も、経皮的髄核摘出術、硬膜外腔剥離術、脊髄刺激療法、腹腔神経叢ブロック、クモ膜下鎮痛、三叉神経節ブロック、理学療法など、必要に応じて行います。

診療科の概要

1990年設立の西宮市立中央病院 麻酔科・ペインクリニック科から、2026年、単独標榜科：ペインクリニック内科/外科として独立しました(日本ペインクリニック学会、日本緩和医療学会研修認定施設、日本頭痛学会認定教育施設)。

資格は、日本麻酔科学会指導医3名、日本専門医機構麻酔科専門医4名、日本ペインクリニック学会専門医4名、日本頭痛学会専門医2名・指導医1名、日本緩和医療学会指導医1名、日本東洋医学学会専門医1名。日本仙腸関節研究会幹事施設。

主要対象疾患

- 腰下肢・頸部痛などの脊椎疾患(椎間板ヘルニア、脊柱管狭窄症、仙腸関節障害)
- 帯状疱疹後神経痛、糖尿病性などの神経症障害性疼痛
- 慢性卒中後疼痛、複合性局所疼痛症候群などの難治性慢性疼痛
- 頭痛、非特異的腰痛などの機能性疼痛
- がん性疼痛 など

トピックス

頭痛、緩和ケアの専門外来も設置します。

頭痛外来は、片頭痛、三叉神経痛などの頭痛・顔面痛を中心に、薬物乱用頭痛など難知性慢性頭痛治療に取り組みます。

緩和ケア外来は、担がん患者さんを中心とする緩和ケアの院内外からの窓口となります。

リハビリテーション科



モリス・シェイン

資格等

- 医学博士(大阪大学大学院)
- 経営学研究科修了(横浜国立大学修士課程)
- 日本脳神経外科学会専門医指導医
- 日本脳神経血管内治療学会 脳血栓回収療法実施医
- 日本脳卒中学会専門医
- 臨床研修指導医養成講習会 修了
- 身体障害者福祉法指定医(肢体不自由)
- 難病指定医
- がん等の診療に携わる医師等に対する緩和ケア研修会 修了
- がんのリハビリテーション研修会 修了
- NovoTTF-100Aシステムに関する講習会 修了

地域の医療機関の先生方へ

当科では、急性期医療を担う基幹病院として、入院患者を中心とした総合的な急性期リハビリテーションを提供しております。早期介入・早期離床を重視し、救急・集中治療領域を含めた超急性期からの機能回復支援に積極的に取り組んでおります。

整形外科、脳神経外科、脳神経内科、内科、外科など各診療科と密接に連携し、多職種カンファレンスを通じて質の高いリハビリテーション診療体制を構築してまいります。また、地域の医療機関や在宅施設と連携し、退院や転院などに向けて、円滑な後方支援および情報提供に努めてまいりますので、地域の先生方のご指導、ご協力を何卒よろしくお願い申し上げます。

診療科の概要

基本方針

当科では、入院中の患者さんを中心に、急性期からのリハビリテーションを行っています。早期からの介入と早期離床を重視し、できるだけ早い回復と退院を目指します。また、救急や集中治療後の患者さんにも対応し、重症の方の機能回復にも取り組んでいます。地域の医療機関や在宅・福祉施設とも連携し、退院後も安心して生活できるよう支援します。

運用

整形外科、脳神経外科、脳神経内科、内科、外科など各診療科と連携し、入院中のリハビリテーションを継続して行っています。心臓病の患者さんに対しては、外来での集団心臓リハビリテーションを予定しています。

医師・看護師・療法士などが協働し、患者さん一人ひとりに合った安全で質の高いリハビリを提供します。

主要対象疾患

当科では、次のような疾病や手術後のリハビリテーションを行っています。

- 脳卒中
- 神経筋疾患
- 運動器疾患や外傷性疾患
- 切断(血行障害や外傷)
- 脊髄損傷
- 関節リウマチ
- 心大血管疾患
- 呼吸器疾患
- がん疾患
- 内部障害

トピックス

超急性期医療の現場である救急・集中治療棟において、多職種が協働し、早期離床を積極的に実施することで、集中治療室関連筋力低下や集中治療後症候群の発症予防、機能回復の促進、早期退院の実現に取り組んでいます。

新病院では脳神経内科を開設し、脳神経外科と連携した脳卒中センターにおいて、急性期から積極的に介入し、身体機能の評価を行いながら、治療の一環として脳血管リハビリテーションを実施し、症状の改善およびADLの向上を目指します。

また阪神地域を主軸に、全国の地域リハビリテーション支援センターおよび自治体と協働し、地域包括ケアシステムの連携体制構築を推進しています。

救急科



中川 雄公
(なかがわ・ゆうこう)

資格等

- 日本救急医学会指導医・専門医、評議員
- 日本外傷学会専門医
- 日本リハビリテーション医学会臨床認定医
- 日本臨床救急医学会評議員
- 日本病院前救急診療医学会評議員
- 大阪大学医学部臨床教授
- 日本集中治療学会専門医
- 日本リウマチ学会専門医
- 社会医学系専門医協会指導医・専門医
- 日本航空医療学評議員、認定指導者
- 兵庫県災害医療コーディネーター
- 日本DMAT隊員(統括DMAT)

地域の医療機関の先生方へ

救急科を窓口として迅速に患者さんを受け入れ、初期診療から院内各科による専門的治療まで連携して診療にあたります。

緊急度・重症度の高い患者さんのみならず、早期の診療が必要な場合はご相談ください。

診療科の概要

診療体制

救急科専門医が24時間365日救急診療に対応し、初期診療から専門的治療まで、各診療科、多職種とも緊密に連携して診療にあたります。

迅速な患者受入れ

二次救急、三次救急患者に加えて、地域の医療機関の先生方からのご紹介にも迅速に対応します。

集中治療

ICUにおける集中治療も各診療科、多職種で連携して行います。

主要対象疾患

- 外傷患者
- 蘇生を要する患者、循環不全や呼吸不全、腎不全等の急性の臓器不全患者
- 緊急度・重症度は高くなくとも、早期の診療が必要な患者
- 複数の診療科にまたがって急性期治療が必要な患者

トピックス

救急医療体制の充実

多くの救急患者に対応できるよう、救急外来の診療スペースと人員を拡充いたします。

迅速な救急医療の提供

救急外来にHybrid ERを備えるとともに、救急に係る診療部門を同一フロアに集約しており、診断から治療まで迅速に対応可能です。

歯科口腔外科



岩井 聡一
(いわい・そういち)

資格等

- 日本口腔外科学会認定口腔外科専門医・指導医
- インフェクションコントロールドクター (ICD)
- 日本口腔外科学会代議員
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医 (歯科口腔外科)
- 歯科医師臨床研修指導歯科医
- 大阪大学招へい教員

地域の医療機関の先生方へ

2020年4月より大阪大学から主任部長として市立中央病院に着任し、病院統合を目指して手術件数や対象疾患を増やしてきました。口腔外科学会研修施設にも認定されました。

新病院では、市立中央病院歯科口腔外科の機能を継続し発展させていきますので、よろしくお願いいたします。

診療科の概要

新病院では、**歯科口腔外科医3名、歯科衛生士3名、非常勤応援歯科医師1名の体制でスタートします。**

- 病床数の大幅な増加とともにこれまで以上に周術期の口腔ケアを充実させていきます。
- 口腔がんの治療(再建を伴う手術、化学療法を含む)や外傷患者の治療(歯や軟組織の外傷から骨折まで)を積極的に行って来ました。新病院では状況に合わせて対応させていただきます。
- 歯性感染症(膿瘍/蜂窩織炎)の入院管理・治療を積極的に行って来ました。新病院でも積極的に継続します。

主要対象疾患

口腔に関連する疾患に幅広く対応しています。

- 埋伏歯の抜歯
- 有病者の抜歯
- 歯性感染症
- 顎骨骨髓炎
- 顎嚢胞/良性腫瘍
- 口腔粘膜疾患(白板症、扁平苔癬、口腔粘膜炎、カンジダ症など)
- 顎関節症
- 口腔がん
- 口腔顎顔面外傷(歯の外傷、顎骨骨折など)

トピックス

- 口腔乾燥症の患者さんの治療も積極的に受け入れています。シェーグレン症候群など自己免疫疾患が疑われる場合は、リウマチ・膠原病内科と連携し治療を行っています。
- 睡眠時無呼吸症候群の診断を呼吸器内科と連携し、マウスピースの作製を行っています。
- 口腔領域の痛みを訴えられる心因性舌痛症などの患者さんも受け入れています。ペインクリニック内科/外科と連携し治療を行っています。

病理診断科

岡 一雅
(おか・かずまさ)

資格等

- 医学博士
- 日本病理学会専門医
- 細胞診専門医

地域の医療機関の先生方へ

病理診断の2人以上の専門医によるダブルチェック体制を整えています。

診断困難な症例に関しては、外部の専門医によるコンサルトを依頼しています。

診療科の概要

- 通常の病理診断は、2~4日で結果を報告しております。
- 迅速に治療に反映できるよう免疫組織学染色を用いるコンパニオン診断を、院内で実施しています。

主な業務と件数

- 1) 診断業務：組織診断、術中迅速診断、細胞診断、病理解剖、コンパニオン診断
- 2) CPC
- 3) 院内実施のコンパニオン診断：ER、PgR、HER2、MMR、CLDN18、ALK、PDL1(予定)、HER2-DISH(予定) など

新設予定・準備中の診療科について

新病院では、診療体制の充実を目的として、以下の診療科の新設に向けた準備を進めております。

- 心臓血管外科
- 精神科

現在、診療開始時期や診療内容の詳細については調整中のため、本冊子では個別の診療案内ページは設けておりません。

診療開始が決まり次第、院内掲示および病院ホームページ等であらためてご案内いたします。

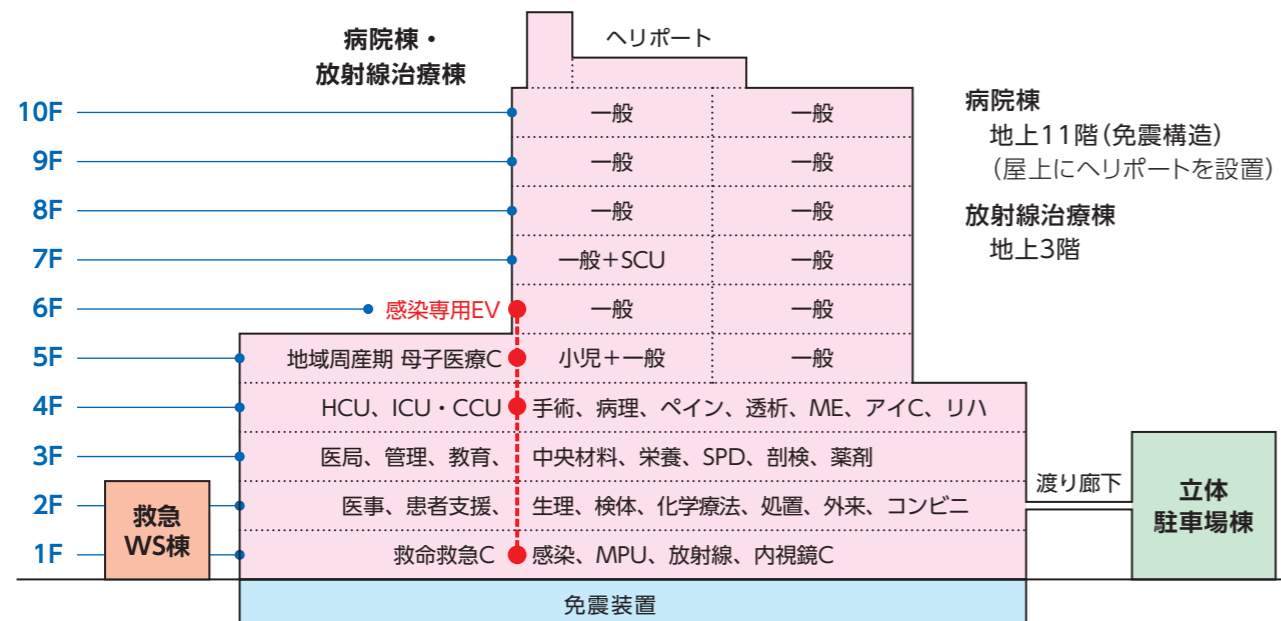
建物概要

敷地内建物配置

平面図



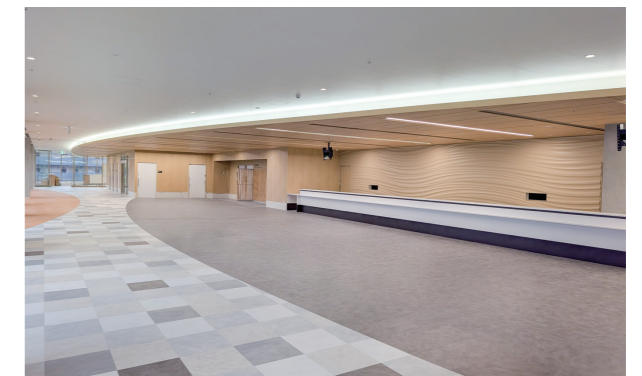
フロア構成



敷地内のロータリーにはバス停の設置も検討中。さらにアクセスしやすい病院を目指します。



立体駐車場と病院をつなぐ渡り廊下で、雨の日も濡れずに快適に移動ができます。



受付・外来を1フロアにまとめ、患者さんの移動の負担を軽減します。



お手元のスマートフォンから待合人数を確認できるアプリを導入。院内外のどこでも診察をお待ちいただけます。

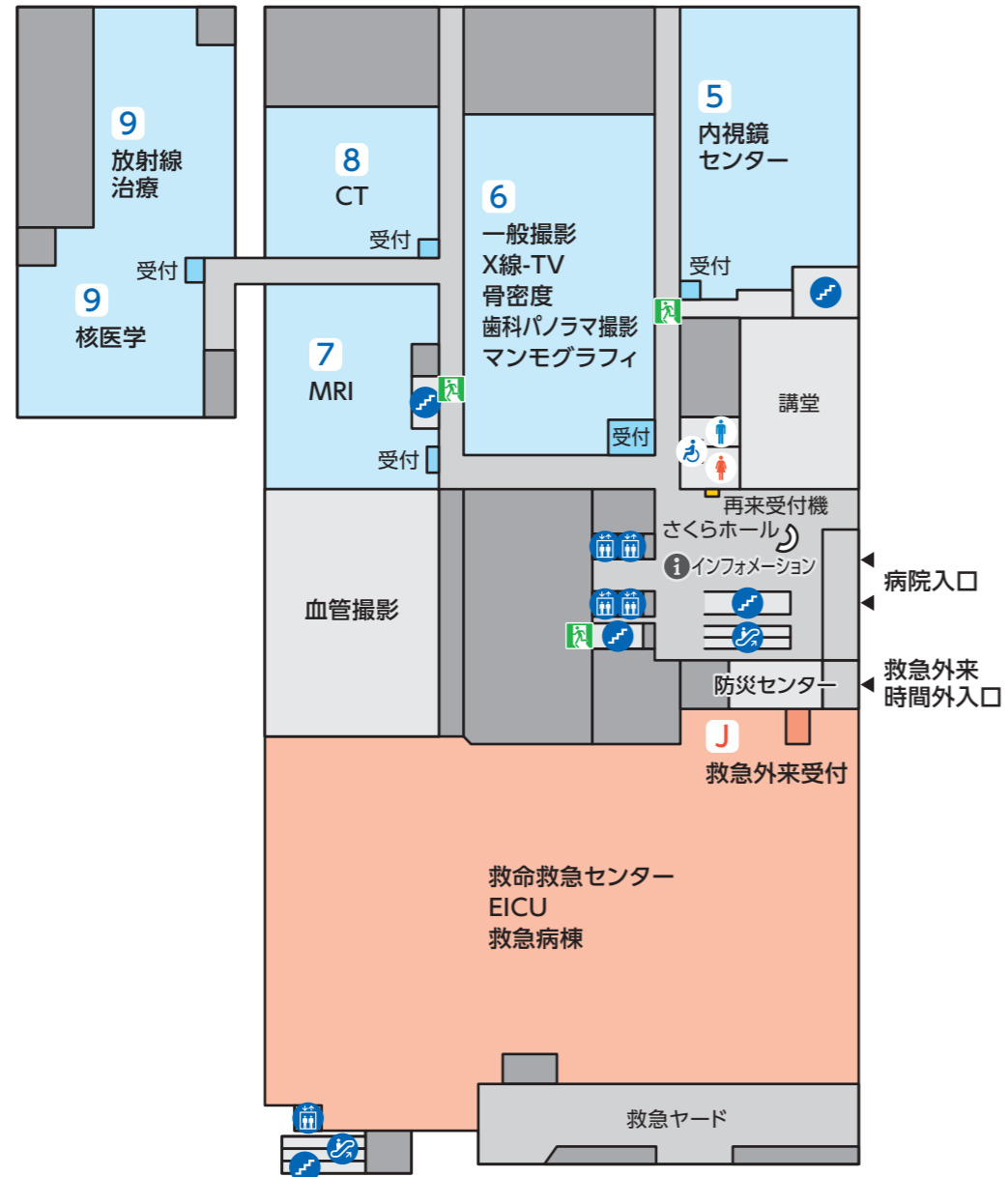


落ち着いた色調で、患者さんが安心して過ごせる病棟空間。

病院棟	<ul style="list-style-type: none"> 延床面積：54,555㎡ 鉄骨造/免震構造・地上11階 塔屋1階(ヘリポート)
放射線治療棟	<ul style="list-style-type: none"> 延床面積：1,228㎡ 鉄筋コンクリート造/耐震構造・地上3階
救急ワークステーション棟	<ul style="list-style-type: none"> 延床面積：382㎡ 鉄骨造/耐震構造・地上2階

フロアマップ

1F



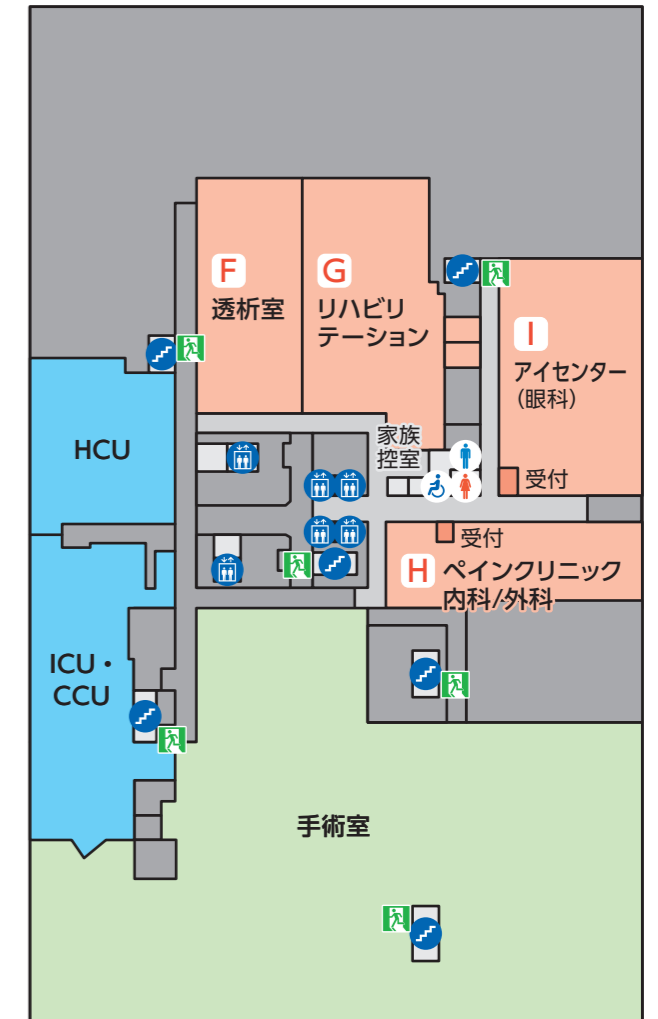
2F



- A** 呼吸器外科 消化器外科 呼吸器内科 消化器内科 救急科 (Thoracic Surgery, Gastrointestinal Surgery, Respiratory Medicine, Gastroenterology, Emergency Medicine)
- B** 循環器内科 心臓血管外科 糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科 (Cardiovascular Medicine, Cardiovascular Surgery, Diabetes/Endocrinology, Rheumatology/Connective Tissue Disease)
- C** 脳神経外科 脳神経内科 形成外科 皮膚科 整形外科 血液内科 腫瘍内科 乳腺外科 (Neurological Surgery, Neurology, Plastic Surgery, Dermatology, Orthopedics, Hematology, Oncology, Breast Surgery)



2F総合受付前 イメージ図



4F

- 階段 (Stairs)
- エスカレーター (Escalator)
- エレベーター (Elevator)
- 非常口 (Emergency Exit)
- トイレ (Toilet)
- 多目的トイレ (Multi-purpose Toilet)
- 理容室 (Barbershop)